

令和7年度 福祉教育学習の手引き



イメージキャラクター
サンダンくん

社会福祉法人
宜野湾市社会福祉協議会

〒901-2205 宜野湾市赤道 2 - 7 - 1
TEL098-892-6525 FAX098-892-0843



赤い羽根共同募金

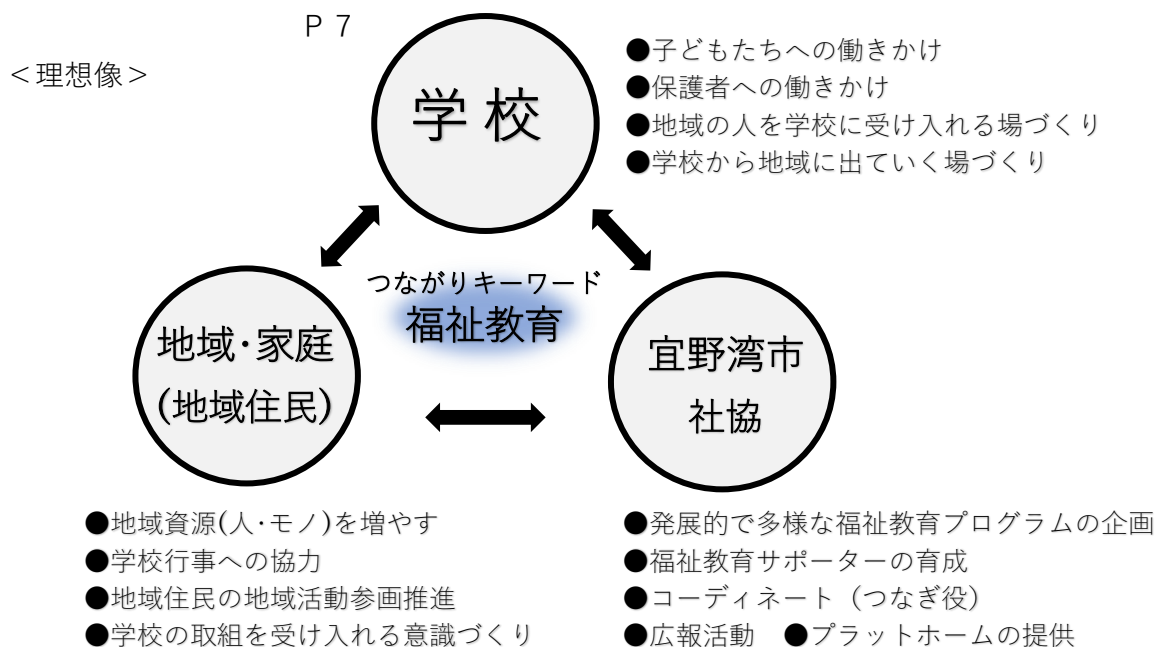
本事業は、赤い羽根共同募金の助成を受けて実施しています。

ー も く じ ー

- | | |
|--------------------------------|-------------|
| 1. はじめに | ・・・ P 1 |
| 2. 福祉教育プログラムの進め方
（年間スケジュール） | ・・・ P 2 |
| 3. 福祉教育プログラム | ・・・ P 3 ～ 6 |
| 4. 申込～報告書提出までの流れ | ・・・ P 7 |
| 5. 様式（各種申請用紙） | ・・・ P 8 ～ 9 |

●はじめに

宜野湾市社会福祉協議会では、身の回りの人々や地域との関りを通して、どのような福祉課題があるかを学び、その課題を解決する方法を自ら考え「行動する力」を養うことを目的とし、「福祉教育プログラム」の提供を行っています。学校が進める福祉教育と連動し、子どもたちの健やかな育ちを地域全体で支えるために、学校・地域・社協それぞれの役割を共有し、ともに取り組んでいきたいと考えています。



●福祉教育とは？

福祉教育とは、すべての人が「より良く生きる」ために、地域社会の福祉課題について共に考えることを目的としています。

また、障がい理解については、“障がい”に着目するのではなく、自分と相手の“違い”や“同じ”に目を向け、多様性を認め合い互いに尊重される存在であることを学んでほしいと考えています。誰もが「普段の暮らしの幸せ」を実現できるように、自分にできることを考え行動する力を育むことを目指しています。

ふだんの くらしの しあわせ
の実現に向けて考えることが福祉教育です

福祉教育プログラムの進め方（年間スケジュール）

No.		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	「福祉教育プログラム申請書 兼 計画書」の提出	— 4月～6月 —											
2	事前打ち合わせ ※Zoomでも可	— 4月～6月 —											
3	(※必須) 福祉教育プログラム①導入講座 「ふくしってなあに？」の実施 (※平日:2時間目～5時間目)		— 5月～7月 —										
4	福祉教育プログラム（②～⑦）の実施 (※平日:2時間目～5時間目)						— 9月～1月 —						
5	「福祉教育推進校 活動報告書」の提出						— 9月～翌1月までに — ※全プログラム終了後1カ月以内						

※注意事項

①申請書、報告書の提出はメールにて送付をお願い致します。

②No.3について、「ふくしってなあに？」は、必須講座です。1学期中（5月～7月）に終わるように申込をお願いします。

③No.4について、プログラム②～⑦は、2学期中（9月～1月）に終わるように申込をお願いします。

<福祉教育プログラム>

	講座	内容・目的		所要時間	講師
※ 必 須	①福祉学習の導入 「ふくしてなあに？」	講話	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉を知り、身近に感じる。 ●宜野湾市の福祉の取り組みを知る。 	45分 (2クラス合同) ※相談可	社協職員
体 験 プ ロ グ ラ ム	②車いす体験（10・11・12月限定）	体験	<ul style="list-style-type: none"> ●車いすの使い方や介助方法を学び、介助する側とされる側、両方の気持ちを体験する。 ●校内や地域にあるバリアに気づき、自分にできることを考える。 	45分 (2クラス合同) ※相談可	外部講師
	③手話ってなあに？（月1回限定）	体験	<ul style="list-style-type: none"> ●当事者とのコミュニケーションや講話を通して、さまざまなコミュニケーション手段があることを知る。 	45分 (2クラス合同) ※100名を超える場合は要相談	外部講師
講 話 プ ロ グ ラ ム	④視覚障がい者の講話（月2回限定）	講話 体験	<ul style="list-style-type: none"> ●一人ひとりの「違い」を認め、誰もが「同じ」ように尊重される存在であることを学ぶ。 ●障がいのある人も地域社会で安心して暮らしていけるように必要なサポートを考えるきっかけとする。 		外部講師
	⑤車いすユーザーの講話	講話 (参加型)		45分 (全クラス合同)	外部講師
	⑥認知症ってなあに？	講話 (参加型)	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症を知り、接し方を学ぶ。 ●高齢者への思いやりやいたわりの心を育む。 	45分 (全クラス合同)	社協職員 又は 外部講師
	⑦障がい者スポーツってなあに？ (中・高校生対象)	講話	<ul style="list-style-type: none"> ●私たちの中にある先入観や心のバリアに気づき、一人ひとりの違いを認め、誰もが活躍できることを知る。 	50分 (全クラス合同)	外部講師 (選手)

※体験プログラム・講話プログラムから1講座ずつ選択してください。

プログラム①

福祉学習の導入「ふくしってなあに？」

<内容>・・・講話（ユニバーサルデザインの展示、貸出有り）

社協職員が講師となり、これから学習する「ふくし」についてオリエンテーションを行います。また、宜野湾市社会福祉協議会の活動を通して、地域に住む一人ひとりの考え方や行動が「やさしいまちづくり」につながることを知り、誰でも福祉活動に参加することができることを学習します。

<学校で準備してほしいもの>

- ・パソコン/プロジェクター/スクリーン(電子黒板可)
- ・長テーブル(1台)



プログラム②

車いす体験学習（10～12月限定/6校まで）

<内容>・・・体験

宜野湾市内にある介護事業所の協力を得て、車いすの役割や使い方を学び、介助する側とされる側、それぞれの立場から気づきが得られるよう、両方の体験を行います。また、体験を通して校内や地域にあるバリア（障害）に気づき、誰もが安心して暮らせる生活環境について考えるきっかけとします。

<学校で準備してほしいもの>

- ・カラーコーン(10本程度)
- ・コーンバー(4本)
- ・マット(4～6枚)



※夏場の暑い時期を避けるため、9月を除外しております。ご理解の程よろしくお願いします。

プログラム③

手話ってなあに？（月1回限定/4校まで）

<内容>・・・体験

聴覚障がいをもつ当事者とボランティア(数名)の協力を得て、手話体験を行います。

手話は「見える言葉」であり、「自分の気持ちを伝えたい」「相手の気持ちを知りたい」と、お互いを思うことが最も大切であることを学習します。

また、当事者の立場から「こんな社会になったらいいな」という声を聞くことで、自分にできることや社会の仕組みについて考えるきっかけとします。

<学校で準備してほしいもの>

- ・マイク(1本) ・ホワイトボード2台 ・マジック極太黒（ホワイトボード用）3本
- ・長テーブル(1台) ・イス(5脚程度) ・マグネット（8個） ・ガムテープ（生徒の名札用）
- ・講師・ボランティア含めた駐車場（5～10台程）※要相談



プログラム④

視覚障がい者の講話（月2回限定/4校まで）

<内容>・・・講話

ミニアイマスク体験では「できること探し」を目的とします。「何もできないのでは？」という先入観を「できることがたくさんある」という気づきに変えるきっかけとします。

また、目が不自由な方への手助けの仕方を学習し、自分にできることを考えます。

<学校で準備してほしいもの>

- ・マイク(1本) ・ピンマイク（1個）
- ・長テーブル（1台）



プログラム⑤ 車いすユーザーの講話

<内容>・・・講話（参加型）

重度心身障がいをもつ当事者の講話やふれあいを通して「違い」を認め、誰もが「同じ」ように尊重される存在であることを学習します。また、障がいがあっても「できること」、障がいがあるから「できないこと」を知り、誰もが幸せに暮らせる社会にするために、自分にできることを考えるきっかけとします。

<学校で準備してほしいもの>

- ・ピンマイク(2個) ・マイク(1本) ・長テーブル(1台)
- ・パソコン/プロジェクター/スクリーン(電子黒板でも可)



プログラム⑥ 認知症ってなあに？

<内容>・・・講話（参加型）

日常生活において起こりうる認知症高齢者との関りを想定し、望ましい対応をクイズ形式で学習します。楽しく学び、早い段階から「認知症とともに生きる社会」「認知症になっても安心して暮らせる社会」について考え、相手を思いやる豊かな心を育みます。

<学校で準備してほしいもの>

- ・マイク(2本) ・パソコン/プロジェクター/スクリーン
- ・長テーブル(2台) ・イス(2脚) ※要確認

<学校で準備してほしいもの>

- ・マイク(2本) ・パソコン/プロジェクター/スクリーン（電子黒板でも可）
- ※要確認



プログラム⑦ 障がい者スポーツってなあに？（中・高校生対象、月1回）

<内容>・・・講話

障がいの有無に関わらず、全ての人が自分らしく活躍できる共生社会をつくっていくことの大切さを学びます。また、スポーツという親しみやすい題材を通して、障がいがあってもルールや道具を工夫することで実現できることを知り、社会全体でできることを自ら考え、障がい者理解を促進します。

<学校で準備してほしいもの>

- ・ピンマイク(1個) ・マイク(1本) ・長テーブル(1台)
- ・バスケットボール2～3個 ※要確認



●申込～報告書提出までの流れ

STEP 1 (4～6月)	●申請書類等一式の入手と申請書の提出 <ul style="list-style-type: none">・社協より郵送又は直接申請書類等一式をお届けします。・学年教員で共有し申請書類の提出をお願いします。
STEP 2 (4～6月)	●福祉教育プログラム②～⑦実施に向けた事前調整 <ul style="list-style-type: none">・STEP 1 で提出された「計画書」に基づき日程及びプログラム内容の事前調整を行います。(※9時～15時半)
STEP 3 (5～7月)	●導入講座「①ふくしってなあに？」の実施 <ul style="list-style-type: none">・STEP 1 で提出された「計画書」に基づき日程調整を行い導入講座「ふくしってなあに？」を実施します。
STEP 4 (9～1月)	●福祉教育プログラム②～⑦の実施 <ul style="list-style-type: none">・事前調整の内容の基づきプログラム②～⑦を実施します。 (※②～⑦のうち選択した2講座)
STEP 5 (9～翌2月)	●報告書類一式の提出準備 <ul style="list-style-type: none">・申請したプログラムを全て終えたら、報告書類の準備をお願いします。(写真や児童の感想文等の添付有)

(注意事項)

① 各プログラムの実施につきましては実施校数に限りがあるため、申込順で行います。

②外部講師を派遣する場合に発生する講師料につきましては、助成金（上限1万4千円）を活用することができます。但し、講師料が1万4千円を超える場合、不足分は学校負担となりますのでご注意ください。

※社協から直接講師へ支払いを行います。

③次ページ以降の各種様式はコピーしてご使用ください。

様式はデータでお渡資することも可能です。ご希望の場合は担当係までご連絡ください。

※担当：宜野湾市社会福祉協議会 地域福祉推進係 TEL098-892-6525

福祉教育推進校申請書 兼 計画書

※太枠の中をご記入ください。

記入日：令和 年 月 日

学校名			
校長名	(ふりがな)	担当 教員名	(ふりがな)
対象人数	年生	クラス	(合計 名)
連絡先	担当教員 メールアドレス		

<福祉教育プログラム希望申請> ※①は必須、体験・講話から1講座ずつ選択してください。

	申請	講 座 名	実施校数
必須	○	① 福祉学習の導入「ふくしてなあに？」	全校
ま(グ体験 で1ラプ 講座ムロ		② 車いす体験(10・11・12月限定)	6校
		③ 手話ってなあに？ (9～12月、月1回限定)	4校
(講話 1講座 まで)		④ 視覚障がい者の講話(月2回限定)	4校
		⑤ 車いすユーザーの講話	2校
		⑥ 認知症ってなあに？	4校
		⑦ 障がい者スポーツってなあに？(月1回)	中・高対象

<福祉教育プログラム年間計画 計3講座>

	講座名	希望日
1	導入講座「ふくしてなあに？」 ※5月～7月中に計画して下さい。	第1希望： 年 月 日() ～ 校時 第2希望： 年 月 日() ～ 校時
2	体験プログラム： ※9月～12月中に計画して下さい。	第1希望： 年 月 日() ～ 校時 第2希望： 年 月 日() ～ 校時
3	講話プログラム： ※9月～1月中に計画して下さい。	第1希望： 年 月 日() ～ 校時 第2希望： 年 月 日() ～ 校時

事前調整 希望日時(※プログラム①～⑦の事前調整を4～6月の間で行います)

第1希望	第2希望
月 日() : ~	月 日() : ~

提出先：宜野湾市社会福祉協議会 地域福祉推進係 ボランティア担当まで
 〒901-2205 宜野湾市赤道2丁目7番地1号(宜野湾市社会福祉センター内)
 TEL:(098)892-6525 FAX:(098)892-0843
 E-Mail: sandankun@ginowanshakyo.or.jp

令和 7 年度 福祉教育推進校 活動報告書

学校名：_____

担当者名：_____

1. 福祉教育プログラムの良かった点、課題とする点、お気づきの点等がございましたら、ご自由に記入して下さい。

2. 社協や外部講師への要望等について

※代表児童の感想文と講座を実施した写真 1 枚を、活動報告書と共にメールにて送付して下さい。

●提出して頂いた児童の感想文・写真は、宜野湾市社会福祉協議会及び宜野湾市の広報誌や SNS に掲載される場合があります。予め、児童及び保護者の同意を得た上で添付下さいますようお願いいたします。

提出先：宜野湾市社会福祉協議会 地域福祉推進係 ボランティア担当まで
〒901-2205 宜野湾市赤道 2 丁目 7 番地 1 号（宜野湾市社会福祉センター内）
TEL：（098）892－6525 FAX：（098）892－0843
E-Mail：sandankun@ginowanshakyo.or.jp



赤い羽根共同募金

